

事業名	第一東海自動車道 <small>えびなみなみ えびな</small> (海老名南JCT~海老名)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自)神奈川県海老名市門沢橋 <small>えびな かどさわし</small> 至)神奈川県海老名市中新田 <small>えびな なかしんでん</small>			延長	3 km	
事業概要						
首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、東京都心から半径およそ40~60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、3環状9放射道路ネットワークの一部を形成し、東京都中心部への交通の適切な分散導入を図り、首都圏全体の交通の円滑化、首都圏の機能の再編成等を図る上で重要な路線である。海老名南JCT~海老名区間は、その一部を形成する延長3.4kmの自動車専用道路である。						
H10年度事業化		H8年度都市計画決定		H10年度用地着手		H17年度工事着手
全体事業費	1,199億円		事業進捗率	89%	供用済延長	1.9km
計画交通量	20,000台/日~29,300台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年
	(事業全体) 2.3 (残事業) 34.8	(残事業)/(事業全体) 93/1,388億円 事業費: 55/1,349億円 維持管理費: 39/39億円		(残事業)/(事業全体) 3,249/3,249億円 走行時間短縮便益: 3,070/3,070億円 走行費用減少便益: 96/96億円 交通事故減少便益: 82/82億円		平成23年
感度分析の結果						
残事業について感度分析を実施						
交通量変動	: B/C=38.3(交通量 +10%)		B/C=31.3(交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C=32.8(事業費 +10%)		B/C=36.9(事業費 -10%)			
事業期間変動	: B/C=36.7(事業期間 -1年)		B/C=33.4(事業期間 +1年)			
事業の効果等						
並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる						
並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される						
三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる						
他3項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見						
<神奈川県>第一東海自動車道(海老名南JCT~海老名)は、横浜湘南道路等と一体となって圏央道の一部を構成するとともに、本件の南北方向の骨格路線であり、また、我が国の大動脈となる東名高速道路や新東名高速道路と自動車専用道路網を形成することで、地域活性化はもとより、切迫している東海地震などの災害発生時には、円滑な緊急物資の輸送を支える大変重要な路線である						
・また、沿線には既に多くの企業が進出しており、本路線の整備は、県民や企業の期待も大変大きく、平成24年度の開通目標に遅れることなく、引き続き本事業を強力に推進されたい。						
事業評価監視委員会の意見						
対応方針(原案)のとおり了承。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
・海老名I.Cの整備により、周辺一般道路の混雑解消に寄与しており、延伸部の整備により更なる交通分散や渋滞緩和が見込まれるため、早期整備に益々期待が高まっています。						
・救急搬送時間の短縮により、患者の方々の早期治療や救急車の不在時間減少に寄与しており、延伸部の早期整備に益々期待が高まっています。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
工事実施中						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
今後も引き続き工事の推進を図る予定。						
施設の構造や工法の変更等						
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由						
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						

事業概要図



対象区間

()は仮称

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの